

東京台東区谷中の細幅織物(リボン)産業関連資料調査

権上かおる¹⁾，山崎範子¹⁾，真鍋雅信²⁾，吉田喜一³⁾

1)谷中のご屋根会 2) 澁澤倉庫 3) 東京都立産業技術高等専門学校

Manufacture of narrow woven fabrics (ribbon) related search for material in Tokyo Yanaka, Taito-ku

Gonjo kaoru, Yamasaki noriko (Yanaka Sawtooth-Roof Heritage Society) ,

Manabe masanobu (THE SHIBUSAWA WAREHOUSE. CO.,LTD) ,

Yoshida Kiichi (Tokyo Metropolitan College of Industrial Technology)

1. はじめに

2013(平 25)年9月、東京都台東区谷中で北側に窓を持つ5連の鋸屋根工場が解体された。解体時は印刷会社が使っていたが、1894(明 27)年、または1910(明 43)年から、リボン工場として紳士用の帽子や女性のドレスにあしらう絹のリボンを製造していた。町のランドマークであった鋸屋根工場の解体を惜しむ声に推されて、谷中のご屋根会が結成され、建物の一部を譲り受けて、現在は澁澤倉庫のご厚意で保管、地元での活用を模索中である。

工場脇にあった小屋の古い書棚からは、洋書を中心とした1900年前後の繊維産業関係の文献資料が多数発見された。今回は、この文献の全体像を把握するために作成した文献目録の概要について報告する。

2. 谷中リボン工場の経緯

工場のあった台東区谷中は文京区との区境に位置し、昭和の初めに暗渠となるまで川が流れていた。川は不忍池からこのあたりまでを藍染川、少し上流で谷田川と名を変える[図1]。明治・大正期はリボン工場をはじめ、ネクタイ、染物、うちわ、人力車の母衣、下駄の爪皮などの工場が多く見られた。

鋸屋根工場跡地の地主の親族の方が書いた「創業から現在までの流れ」によれば、「1894年(明 27)年8月、白木屋の支配人を10年勤めた岩橋謹次郎が財界の支援を



図1 明治20年の頃の藍染川とリボン工場

受け国産リボンを作るべく岩橋リボン製職所を創業。1907（明 40）年に三井財閥が日本で唯一のリボン工場の将来性に着目し、買収して東京リボン製職所とした。その後、渡辺銀行の支援により渡辺四郎が買取り、千代田リボン製職所となった。その後、工場長の青木道造の仲介で鈴木哲が買い取った」とある。工場は 1966（昭 41）年まで操業した。

3. 渡辺四郎について



写真 1 渡辺四郎

発見された文献資料は、そのほとんどが、年代、蔵書印などから渡辺四郎〔写真 1〕の収集である。氏は資産家の東京渡辺銀行頭取、渡辺治右衛門の四男である。

今回の調査のなかで、MAR 15 1903 ゴム印の書籍（仮No.71）から、自筆の履歴書の下書きが発見された〔写真 2〕。これによると、1880（明 13）年 8 月、東京市日本橋区本材木町 1 丁目（現中央区日本橋 1 丁目）生まれである。ここは、日本の郵便の発祥の地と言わ

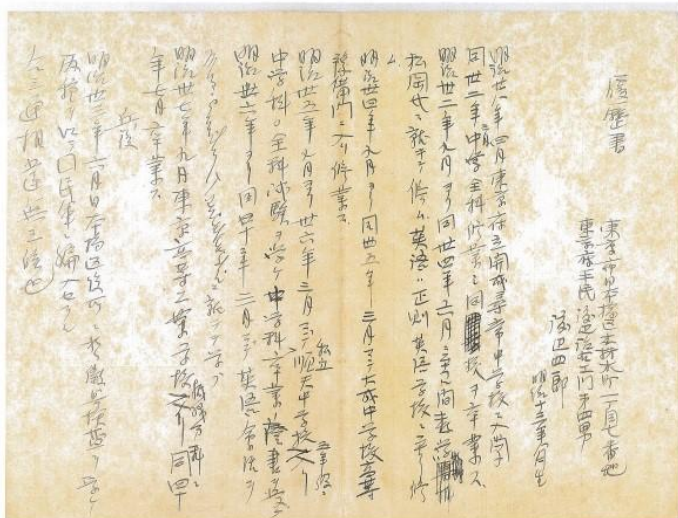


写真 2 書籍から発見された履歴書の下書き

れる現日本橋郵便局付近であるうか。当時の東京の中心地である。

1899（明 32）年に東京府立開成尋常中学校を卒業した。現在の開成中・高等学校の前身で、この場所の旧町名は、日暮里渡辺町と称した。渡辺治右衛門が開いた土地である。その後、正則英語学校（現正則高校）、大成中高

予備門（現大成高校）、順天中学校（現順天学園）などを経て、また個人指導で数学、英会話を学び、1904（明 37）年 9 月東京高等工業学校機械分科入学、1907（明 40）年 7 月に 27 歳で卒業している。

蔵書にあるサインや印の中で、国外住所も 4 冊認められた。

1910 年；ロンドン；イギリス 3 冊。1910 年サンテティエヌ；フランス 1 冊。

これらは、織物研究のため 1910（明治 43）年から 1913 年まで紡織機研究のためフランスに滞在し、この間 1910 から 1912 年にかけて欧米諸国の視察を兄弟と共に行って

いることの物証となるであろう。

晩年は潔癖症を病み、子供達も近づけない状態で、1921（大正10）年、42歳で没した。

また、交友のあった岩崎輝弥（三菱の創始者、岩崎弥太郎の甥 1887-1921）とともに写真家小川一真に依頼して撮影した鉄道写真‘岩崎・渡辺コレクション’（現在は鉄道博物館に収蔵・展示）で著名である。

4. 文献について

総点数 103 点（書籍以外のもの 2 点も含む）の本文献資料の特徴は以下である。[写真3]

① 大きく 3 分類できる

a) 渡辺がヨーロッパに留学中や日本で取り寄せた繊維関係の洋書

b) 渡辺が東京高等工業学校で学んだ際のノート類の製本されたもの

c) 国内外製と類推されるリボンの見本帳 [写真4]

② 洋書については、後世で使用された形跡がなく、保存状態が極めてよい

③ リボンの見本帳の保存状態も良く、当初の色彩を保っているものも多い

④ 文献の発行年は、1900年代をピークに、1910年代と続く。1885年のDie Bindungslehre für Gewebe(織物のためのシリーズ)がもっとも古く、1932年の和書が最も新しい

⑤ 年代の新しい和書は、年代と鈴木蔵書印からみて、鈴木蔵書と推定される。なかでも‘最新機織法’前編（三浦幹太郎（Tokyo 府立織染学校教諭）昭和4年（1929）仮No.76）見返しには、「本書は昭和20年3月4日の爆撃に因り甚しく汚損の止むなきに至る（鈴木印）」と記されている

⑥ その他に時代を感じさせるものとしては、



写真3 譲り受けた蔵書の山



写真4 リボンの見本帳から

‘最新機織法’後編（高級組織及紋織法太田七郎（前米澤高等工業学校教授）校閲三浦幹太郎（Tokyo 府立織染学校教著）昭和4年（1929）に「紀元2600年奉祝祝典記念バス壱区乗車券」が挟まれていた

- ⑦ 繊維関係の文献は、養蚕、製糸、織機の機械工学、織物のデザインなど、幅広い収集である
- ⑧ 洋書の言語は英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語である
- ⑨ 分野別に見ると機械関係はドイツ語が多く、紡績撚糸、繊維、織物設計関係は英語のみであった
- ⑩ リボン工場の経営に関する資料は皆無である。おそらく、途中の時代に処分されたものと推定される

No.	書名	副書名	著者名	シリーズ名	言語	発行年
46	Hundbuch für Webeschulen sowie zum Selbstunterricht für Weberei-Beflissene. (紡織学校と織物を独学する学生のためのハンドブック)	Text Band (テキスト版)	Ruh Drnk	Die Bindungslehre für Gewebe(織物のためのシリーズ)	ドイツ語	1885
3	Textile Machinery (繊維機械製織編)	Relating to Weaving Part II	Posselt, E. A.	Posselt's Textile Library Vol.VI	英語	1901
97	Silk Dyeing, Printing, and Finishing (シルクの染色、捺染、仕上)		George H. Hurs t, F.C.S	Technologic al Handbooks	英語	1892
51	JACQUARD WEAVING AND DESIGNING (ジャカード織物と設計)		T.F.BEL L		英語	1895

リストの一部

おわりに

谷中のご屋根会では、2014年2～3月「谷中のご屋根展～藍染川ファクトリーライフ」(ギャラリーTEN) [図2] および2014年11月「復活に向けて 谷中のご屋根展 in HAGISO」(HAGISO) [図3] にて、展覧会を開催した。目的は、譲り受けた鋸屋根の骨組みの活用先を探すためである。ややもすると下町風情を楽しむ観光地とみられるこの町が、明治以降、時代の先端をゆくハイカラなりボンやネクタイを作り、働き暮らした町であった記憶を留めておきたいと願うからである。

その活動の中で、文献についても整理し、活用の道はないだろうかとの思いが強くなった。しかし、専門性はなく、文字の判読から苦しみ、量の多さにも格闘することとなった。まだ校正の余地は大きいと考えるが、リストの公開という一步の前進させ

たく、今回の発表の場をいただいた。

ここまでたどり着いたのは、ひとえに、玉川寛治さんのご協力・助言によるもの。繊維産業への専門性はない発表者達だが、なんとか地元の産業の記録と記憶を留めたいという強い思いを持つ。なにかご教示・ご協力をいただける方は、月刊のこぎり屋根サイト <http://nokoyane.com/> へ、ご連絡をいただければ、望外の喜びである。

図2 (右)「谷中のご屋根展～藍染川ファクトリーライフ」の案内チラシ

図3 (下)「復活に向けて 谷中のご屋根展 in HAGISO」の案内チラシ



謝辞

オリジナル部材の保存にご理解くださった旭プロセス製版、澁澤倉庫、ギャラリーTEN、HAGISO、地元町会各位、文献資料を大切に保管されていた鈴木家の皆様、解体の危機の中で参集した谷中のご屋根会の仲間、のこぎり屋根に関心を寄せてくださった多くの方々、最後に改めて、玉川寛治さんに深謝いたします。

参考文献

谷中のご屋根会「谷中の『のこぎり屋根』」のご屋根編集室 2014年

小川功「企業破綻と金融破綻－負の連鎖とリスク増幅のメカニズム－」九州大学出版会 2002年

菅建彦「交通博物館の至宝－岩崎・渡辺コレクション」日本写真学会誌 2004年 67巻 2号:108-112

森まゆみ「明治東京畸人傳」中公文庫 2013年、

地域雑誌「谷中根津千駄木」谷根千工房 1984～2009年

月刊のこぎり屋根 <http://nokoyane.com/>